

消防署へ感謝を込めて



2月16日(金)に株式会社ベース(養老ベース 蛇持)より、町へ10万円と救急車用のタイヤ16本を寄附いただきました。深山恭行取締役会長は「新型コロナウイルス感染症の感染が拡大していた中でも、町民のために危険を顧みず、消防および救急活動において尽力いただいたことに対し、感謝の気持ちを込めて寄附しました。皆さまの励みになればと思います」と話し、その篤志に対して川地憲元町長から謝辞と感謝状が贈られました。

いただいた寄附は、町の消防・防災活動および救命救急活動において活用させていただきます。

活気あるまち「養老」のために



川地憲元町長へ目録を手渡すR&R株式会社 広報担当の中野麗央さん

2月27日(火)に焼肉てっちゃんのグループ会社であるR&R株式会社(大垣市)より、企業版ふるさと納税制度を活用し、50万円を寄附いただきました。

同社の山田康紀代表取締役は「人は自分の力だけでは成長できません。地元である養老町をはじめ、自分を育ててくれたまわりへの感謝を忘れてはいけないと思っています。今回の寄附はその感謝の気持ちを込めました。このまちにはたくさんの魅力があります。魅力をどんどんPRし、さらに活気あるまちとするために役立ててください」とふるさとへの思いを語りました。

いただいた寄附金は、人が集まり交流し、さらに活気あふれるまちをつくるために活用させていただきます。

小学生としての集大成 悔いのない大会に



第11回岐阜県小学生ソフトテニスシングルス大会において優勝し、千葉県で開催される第23回全国小学生ソフトテニス大会へ出場する稲垣亜瞳選手(瑞穂ジュニア)が、3月8日(金)に川地憲元町長を訪問しました。

川地町長は「今までにも何度か県大会の優勝を報告してくれ、勝って当たり前というプレッシャーの中での優勝はとても立派だと思います。小学生最後の大会になると思いますが、悔いのない大会にしてください」と活躍をたたえ、稲垣選手は「去年出場した全国大会では満足いく結果を残すことができませんでした。今年は自分の納得いく結果を残せるよう、優勝を目指して挑みたいです」と大会への思いを語りました。

今回は惜しくも銀、次は金を!



優勝へと意気込む野村倫太郎選手(写真中央)と大橋龍生選手(写真左)

岡山県で開催された第16回全日本ユース(U16)水球競技選手権大会―桃太郎カップ―においての準優勝と、新潟県で開催される第10回(2023年度)全日本ジュニア(U17)水球競技選手権大会―かしわざき潮風カップ―へ岐阜選抜チームで出場すること、千葉県で開催される第46回全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会(水球競技)へ大垣市水球クラブで出場することを報告するため、野村倫太郎選手と大橋龍生選手が3月6日(水)に川地憲元町長を訪問しました。両選手は「優勝できなかったのは自分の力不足だと思うので、さらに練習に励んで力を付けていきたいです」「自分より身体が大きい選手にも負けないプレーをしたいです」と意気込みを話しました。